

たんちよう

JAくしろ丹頂
広報誌

vol.114

2017.3

くしろ丹頂



「乳質改善プロジェクト」メンバー

C O N T E N T S

- 釧路丹頂農業協同組合 乳質改善プロジェクト開始 — 1
- 音別・白糠4Hクラブが最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞 — 2
- 音別・白糠4Hクラブ「哺育管理プロジェクト」— 3～4
- 酪農振興会「酪農祭」
JA女性部役員が白木常務理事と意見交換 — 5
- 鶴居村タンチョウフェスティバル
根釧合同JA役員研修会 — 6
- 普及センターだより — 7
- JAグループ通信 — 8
- JA北海道大会実践フォーラム「パネリストからの提言」 — 9
- (株)農協観光からのお知らせ — 10
- 理事会報告 / 生乳生産実績 / 日本農業新聞からのお知らせ — 11



おいしい豚汁を販売・女性部幌呂支部
(鶴居村タンチョウフェスティバル)

釧路丹頂農業協同組合 乳質改善プロジェクト開始!!

～目的:生乳生産の量産・品質の安定化を図る!!～



二月二十一日、本所で釧路丹頂農業協同組合 乳質改善プロジェクト発足会議が開催されました。

開催にあたり本プロジェクト代表 武藤清隆組合長は「現在、酪農を取り巻く情勢は、乳価の上昇や個体販売価格の高騰など経済的には良い状況が続いておりますが、この状況がいつまでも続くとは考えてはおりません。酪農経営とは生産した生乳による対価によって経営がしつかりと続けられる事が求められると考えます。しかし、生乳生産に付き物である乳房炎に生産者は苦勞を強いられており、廃棄乳だけでも莫大な損失を被っている現状です。今、国内外で質の高い生乳が求められております。廃棄乳を少しでも減らし、質の高い生乳を搾り、所得につなげていく事に主眼を置き、将来を見据えつつ私達は一丸となって乳質改善に取り組んで参りたい。」と挨拶しました。

本プロジェクトは、生乳生産の量産並びにその品質の安

定化により、生乳廃棄ロスを削減するとともに乳代単価及び農家所得の向上を図り、酪農経営の安定に寄与する事を目的とし、目的達成のため次に掲げる事業に取り組んで参ります。

■事業内容

- (1) 生乳生産の量産及び乳質改善に関する講習会・研修会の開催
- (2) 乳質改善のための調査、研究に関する事
- (3) 乳質改善の技術指導及びその普及に関する事
- (4) その他必要な事項

■構成員

- (1) 釧路丹頂農業協同組合
- (2) 鶴居町
- (3) 白糠町
- (4) 釧路市
- (5) 北海道ひがし農業共済組合釧路西部事業センター
- (6) 釧路農業改良普及センター
ー 釧路中西部支所
- (7) ホクレン釧路支所
- (8) 釧路農協連
- (9) よつ葉乳業(株)根釧工場
- (10) ミルカー点検実施業者



音別・白糠4Hクラブが最優秀賞・農林水産大臣賞を受賞!!

～全国青年農業者会議（畜産部門）「子牛の健康管理」が高評価～



後列左から、普及センター高橋さん、武藤組合長、白木常務、坂本部長
前列左から、對木さん、五十嵐さん、伊深さん（受賞報告時の本所での撮影）

二月二十八日から二日間、

東京都内で第56回全国青年農

業者会議（全国農業青年クラ

ブ連絡協議会主催）が開催さ

れ、音別・白糠4Hクラブが

発表した「哺育管理プロジェ

クト」が農業経営（畜産）部

門で最優秀賞「農林水産大臣

賞」をみごと受賞しました。

全国大会のプロジェクト発

表には21団体が出場し、畜産

部門は各ブロック代表の五団

体が発表し、白糠4Hクラブ

会長の五十嵐大地さん、伊深

祐樹さん、對木隼憲さんの三

人がクラブの代表として出場

しました。

2014年から三年間、多

くの酪農家が悩む子牛の下痢

等について地域の課題に取り

組んだ「哺育管理プロジェクト

ト」SEASON3・ファイ

ナル」をテーマに、五十嵐

会長が成果について規定の10
分間で披露しました。

（内容は3～4ページに掲載）

プロジェクトの最初の二年

間は哺乳量を一時的に減らす

「減乳方法」や「会員農場の

施設増設」などに取り組み、

その結果、腸炎発生率が激減、

診療回数二回以上の重症牛の

減少、また初生トクの出荷日

数を二日間短縮させるなどの

成果を得ました。

今年度は、プロジェクトで

得た知識と会員農場の実践事

例をまとめた「哺育プログラ

ム」を作成し、クラブ員で手

分けして地域の酪農家に配布、

さらにアンケートを取り波及

効果を確認しました。今後も

実践出来ない人への後押し

や哺育管理の重要性を広め、

将来を見据えた活動を続けて

いく考えです。

部門名	畜産経営部門	都道府県名	北海道
演題名	哺育管理プロジェクト～SEASON3・ファイナル～		
所属クラブ	白糠町・音別町 4H クラブ	発表者名	五十嵐 大地

【概要】生産性の高い経産牛を作るためには哺育期の管理が重要と言われているが、クラブ内にはその管理に苦勞している会員がいた。そこで、会員農場の管理改善を図り、さらにその結果を活かして地域内で哺育管理に苦勞している農場の参考になるプログラムを作りたい！という思いから、平成 26 年より哺育管理プロジェクトを開始した。

これまでの活動では会員農場の実態把握調査や各種研修会、会員個々の農場で哺育管理の改善を行ってきた。3 年目となる今年度は哺育プログラムを作成し、地域の酪農家の哺育管理に役立ててもらえるよう配布した。

1. 取組の経過 (H26～27)

- 1) 各種研修会を実施、哺育管理に関する基礎知識の習得や情報収集を行った。
- 2) 哺育管理への意識も高まり、会員個々の農場でも取り組みが行われた。



講習会
(哺育管理・ワクチンなど)



視察研修
(会員農場、管内外事例)



会員農場の取組
(哺乳量の変更、過密防止対策)



哺育施設建設
(会員農場 2 戸で増設)

3) 特に哺育管理に苦勞していた 1 農場、0 農場では

- ・ H26 に哺乳量を一時的に減らす「減乳方法」の実践、
- ・ H27 に施設を増設し、施設不足の解消を行った。

その結果、

- ・ 腸炎発生率が激減し、診療回数 2 回以上の重症牛も減少した (図 1)。
- ・ また初生トクの出荷日数が 2 日間短縮された。

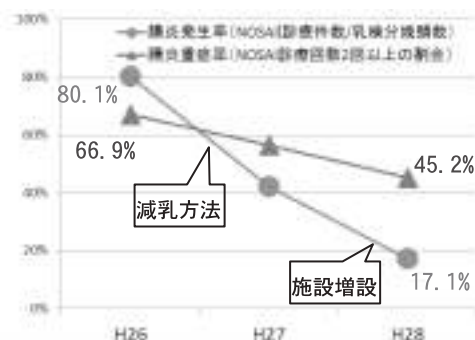


図 1. 腸炎の発生率と重症率 (診療回数 2 回以上) の変化 (0 農場)

2. 今年度の活動

1) 活動内容

プロジェクトで得た知識と会員農場の実践事例をまとめた哺育プログラムを作成し、クラブ員で手分けをして地域の酪農家に配布した。さらにアンケートを配布し波及効果を確認した。



哺育プログラムの製本



哺育プログラムと
アンケートの配布



完成した哺育プログラム

※哺育プログラムの閲覧希望者は、普及センター迄連絡願います。

2) 結果（アンケートで波及効果確認）

Q.参考になりましたか？その項目は？

- ・ほぼ全員が「参考になった」と回答。
- ・下痢や哺乳についての関心が高かった。
- ・つい後回しにされがちな観察やワクチン、哺乳器具の衛生にも参考になったとの声があった（図2）。

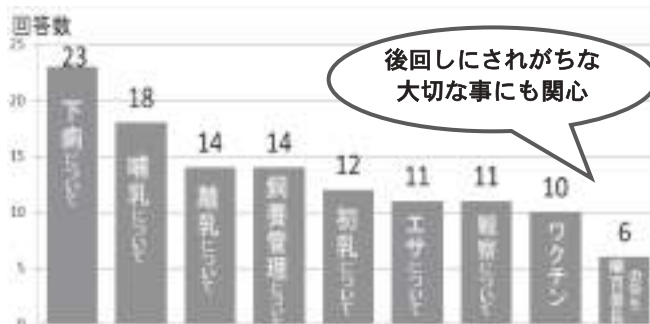


図2. 特に参考になった項目（n=36）

哺育管理を見直すきっかけとなった



図3. 哺育プログラムを実践したか(n=27)

Q.哺育プログラムを実践しましたか？その内容は？

- ・「実践した」が約21%、「実践してみようと思っている」が約62%と多くの酪農家に役立てた（図3）。
- ・「3L 哺乳瓶を購入してみた」、「哺乳器具をアルカリ洗剤で洗うようにする」など前向きな声もあった。
- ・「紹介されていた補液剤を使用して糞がしまるようになった」、「家族で哺育管理について話すきっかけとなった」、「哺育管理の重要性を再認識した」との感想もあった。

地域の酪農家の行動を後押しできた

目標達成

3. 考察～なぜ目標達成できたか～

- ・会員農場による実践事例や実体験が盛りだくさんで、より実践的な内容であった。
- ・4Hクラブ員が手作りし、直接配布したことで受け取った人が身近に感じてくれた。



やってみようかな

「自分もやってみようかな」という気持ちを持ってもらえた

4. 最後に

目標は達成したが

回収したアンケートには哺育管理に関する様々な質問が書かれていた。

- （Q1. 哺乳量が多いと下痢になりやすい？
Q2. ステップダウンミルク給餌法はいつから開始？
Q3. 下痢5種ワクチンの効果はどれくらい？）

アンケートには
多数の質問が・・・

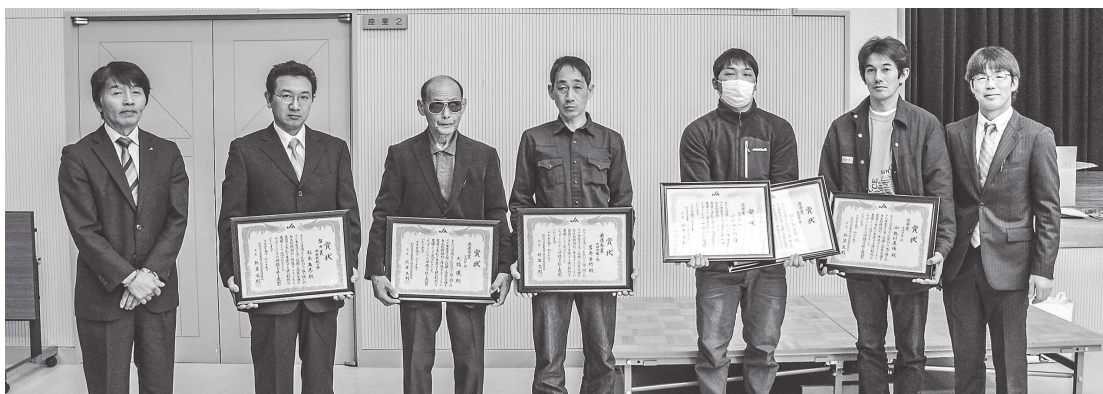
まだやるべきこと

現在、質問に対する回答集を作成し、まだ実践できていない人の後押しや哺育管理の重要性を再認識してもらうため配布する予定である。

哺育管理の地域波及
はまだまだ続く！

酪農振興会「酪農祭」開催

～講演会及び良質乳出荷農場を表彰～



左から 武藤組会長、松永さん、大橋さん、筈崎さん、明歩谷さん、橋村さん、折笠会長

二月十七日、幌呂農村環境改善センターで当JA酪農振興会主催の「酪農祭」が開催されました。

組合員及び関係者合わせ59名が参加し、ホクレン畜産生産部主任考査役大塚博志氏を講師に迎え、「植

生改善の実践事例紹介」雑草に打ち勝つ草地管理」と題し講演が行なわれました。

良質乳出荷農場表彰式では、平成二十八年一月から十二月出荷乳量に対する体細胞数・生菌数が優秀な7農場が表彰されました。

良質乳出荷表彰農場

(体細胞数の部)

最優秀賞	音別	筈崎昌行	農場
優秀賞	鶴居	(合)橋村	農場
優秀賞	幌呂	明歩谷正志	農場
努力賞	白糠	松永康彦	農場

(生菌数の部)

最優秀賞	白糠	大橋護	農場
優秀賞	幌呂	明歩谷正志	農場
優秀賞	音別	大和田清一	農場

JA女性部役員が白木常務理事と意見交換

～農業協同組合の意義・農協改革などについて討議～



二月二十二日、釧路市でJA女性部役員会が開催され、同部役員と白木常務理事との意見交換会が開催されました。

白木常務理事より協同組合とは何か、相互扶助の基本的な考え方、JAの意義、

農協改革を巡る動きやサポーター550万人づくり運動などについて説明がされました。

その後の昼食会ではきたんのない意見も出され、大変有意義な意見交換会となりました。

「根釧牛乳」は美味しいと好評!!

～第30回 鶴居村タンチョウフェスティバル～



二月十二日、鶴居村総合センター前庭野外ステージで、第三十回鶴居村タンチョウフェスティバルが開催されました。好天に恵まれ、たくさんの来場者で賑わう中、JA青年部鶴居支部は、

根釧牛乳の無料試飲を行いました。

佐藤幸一支部長は、「牛乳の消費が伸びてほしい思いで活動しております。部員達で協力し、地道な活動を続けて参りたい。」

JA女性部幌呂支部は、「豚汁」を販売し、吉田鈴子支部長は、「部員達で心を込めて作った豚汁は大変好評です。」と話して頂きました。

会場では、タンチョウウルトラクイズや丹頂群れ太鼓、タンチョウ耐寒競技など様々なイベントが行なわれ大変盛況でした。

農業政策等の転換期に適応力が問われる

～平成28年度 根釧合同JA役員研修会～



二月八日、釧路市で釧路地区・根室管内農協組合長会主催の根釧合同JA役員研修会が開催されました。

釧路・根室管内JA役職員、青年部・女性部協議会役員、各関係団体等から約212名(当JAから16名)が参加しました。研修は、横浜

国立大学・大妻女子大学 田代洋一名誉教授が「農協をめぐる情勢・農協改革と教育活動の価値」。

東京大学大学院 鈴木宣弘教授が『TPP 闘争勝利と「TPP プラス」・農協解体の断固阻止』と題して講演され大変内容のある研修会となりました。

チモシー播種量に
ついて！

低コストの経営を実現するには自給飼料の高品質化が重要になってきます。

より良い草地作りに向け、どれくらいの種子を播種するかは重要なポイントです。

今回はチモシーを中心に、圃場の播種量を、ポット試験事例や根室での実規模試験事例から考えてみましょう。

① 根鋤における播種量は？

チモシーの適正な播種量は、平成七年に根鋤農試の試験成績により、十アールあたり一・二キロ～一・八キロの範囲で播種すると適正な生育をすることが示されています。

② ポット試験事例より

平成二六年にワグネルポット（五千分の一アール）を使用し十アール当たりチモシーを一キロ、一・五キロ、二キロの三段階に分け播種しました。図1が播種後二ヶ月後の様子です。

播種量の多いポットの発芽本数が多い様子が分かります。図2は一年後の様子で二キロのポ

ットは、過密気味である様子が分かります。

1 kg / 10a

1.5kg / 10a

2 kg / 10a



図2 1年後の様子

1 kg / 10a

1.5kg / 10a

2 kg / 10a

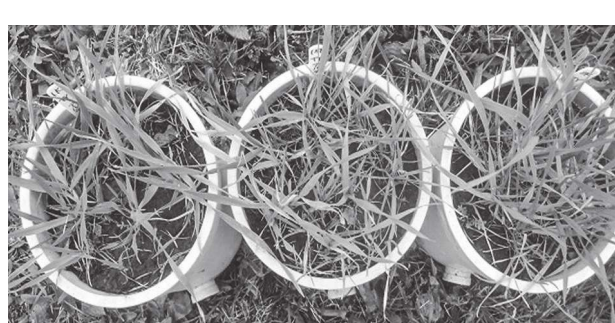


図1 ポット播種後2ヶ月の様子

また、三年目の平成二八年八月現在の茎数は、一キロと一・五キロでは、ほぼ差がない状況でした（表一）。このように播種条件が良ければ一キロでも十分な茎数が得られることが分かりました。

1 kg / 10a	2,300
1.5kg / 10a	2,400
2 kg / 10a	2,950

表1
3年目の㎡当り茎数(本)

③ 現地試験事例より

では、実際どれくらいの量を播種すれば良いか昭和六三年、根室農業改良普及所管内七カ所の圃場の調査事例をもとに示します。

チモシーを一〇アール当たり二・二～〇・七五キロの四段階に分けた混播試験が行われた（表2）。

その結果播種量の多い方が発芽個体は多くなりました。

しかし、翌春の収量は播種量が少なめの一・一キロ区のが最大となりました（図三）。これは、一・一キロでも、条件が整えば

株が充実し良好な生育をしていることを意味します。

逆に二・二キロと多すぎると、過密になり養分を奪い合い結果として収量が増えないことを実証しています。

このように、チモシーの播種量は、播種時の圃場条件に合わせて十アールあたり一・二キロ～一・八キロの範囲で播種すると適正な生育をすることが分かります。

表2 播種量内訳 (単位：kg/10a)

チモシー	2.2	1.5	1.1	0.73
赤クローバ	0.5	0.3	0.25	0.17
白クローバ	0.3	0.2	0.15	0.1
播種量合計	3.0	2.0	1.5	1.0

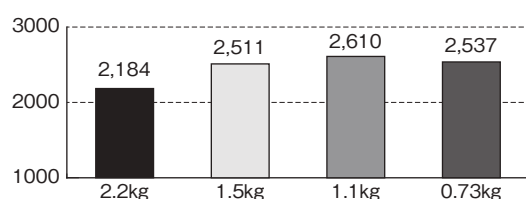


図3 翌春1番草収量 (kg/10a)

発芽後は、掃除刈りや、適正な施肥、炭カルの施用など維持管理を徹底しましょう。

播種組み合わせなどは、農協、普及センターへお問い合わせください。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

平成29年1月、北海学園大学経済学部と北海道大学農学部において、学生向け授業の一環として「北海道農業の概要と、それを支えるJAグループの役割」について講義を行いました。



「北海道農業が日本の食を支えていることを知り、道民として誇りを持った」「JAグループが農畜産物の安定供給だけでなく、インフラ提供等様々な役割を果たしている」と知ることができた」等の感想をいただき、北海道農業・JAへの理解を深めてもらうことができました。今後も「サポーター550万人づくり」に向けた情報発信を進めて参ります。



JA北海道信連

JAバンク北海道では、地域貢献活動の一環として、AEDの寄贈を平成21年度より実施しており、今年度は、JR各駅に7台、大空町社会福祉協議会に1台の計8台を寄贈しました。

累計寄贈数は、今年度分を含めて、43先65台となり、救命活動や救命講習等に活用されています。

写真・JR滝川駅

JAたきかわより贈呈→



ホクレン

ホクレンパールライス部では



「ゆめぴりかごはん」と「北海道こめ油」に次ぐ米関連商品として、日本食品製造合資会社（札幌市）と共同開発により、1月から「ゆめぴりか」の乾燥玄米入りグラノーラ（230g入り）の発売を開始しました。朝食の新しいメニューとして牛乳や豆乳をかけて食べるのがお勧め。道内Aコープやホクレンショップ等パールライス取扱店で販売しています。（取り扱いのない店舗もあります）

JA共済連北海道

「第68回さっぽろ雪まつり」において、平成28年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクールの入賞作品64点を展示しました。

260万人を超える来場者数となった「さっぽろ雪まつり」で、JA共済連北海道の活動と交通安全への思いを知っていただくことができました。

今後も道内のみならず、全国や海外からの観光客の方々にも交通安全の大切さを伝え、事故防止に繋げていきます。



JA北海道厚生連

旭川厚生病院で

「土曜ドック」を！



旭川厚生病院では、男性の方を対象として、隔週土曜日に人間ドックを実施しています。午前中に全ての検査が終了し、検査結果は受診日から1週間ほどでお届けします。前立腺がんや肺ドックなどのオプション検査も可能です。

随時予約を受け付けておりますのでお電話でお問い合わせください。

※完全予約制

（電話0166-3317171(内)2146・2198）

JA北海道大会 実践フォーラム

「パネルディスカッション」

テーマ「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」

株式会社セコマ 代表取締役社長 丸谷智保氏

「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」と題したパネルディスカッションにおいて、パネリストの皆さんから頂いたご提言をシリーズでご紹介します。



氏 保 智 丸
株式会社セコマ
代表取締役社長

組合員との関係性強化

販売力とは供給力をいかにつけるかと言う事とイコールだと思います。

例えば、タマネギ買収の年間契約を、あるJAと結ぶとして、どうしても作付面積が足りない時、販売力を高めるためには、組合員の総意で、作付面積をどう確保するかが、一つの大きな課題だと思います。使う側にとってみると、原

材料の市場価格の変動が、一番大きな問題であり、安定した調達が私どもの商売にとって非常に重要となっています。営農指導、あるいは販売力を強化するためには、今まで以上に組合員と農協の関係をしっかりと構築して、販売事業に基づく生産をしてもらうというような関係性を強化すべきではないかと思っています。

価格の安定性も非常に重要ですが、数量の安定確保も非常に大きな課題です。農協と組合員の関係を、今一度見直し、どこまで農協の指導に従うべきか、どこまで一括して購入した資材を使うか。そこを強化した、より一体化した取り組みをしていくことが販売力を強め、供給力を強めていくことに繋がります。

安定的な生産、供給量の確保は、販売力の強化につながり、取りも直さず所得向上に大きくつながっていくと思います。

物流コスト低減と

買取販売による年内精算

所得向上に向けて非常に重要なのは、物流コストをどうやって抑えるか。これが1点目。

フェリーの南下便で関東方面などの大きなマーケットに物流をしますが、帰りの北上便が中々埋まらないというところが、物流コストを押し上げてしまう一つの要因と思います。

物流面は、やはりホクレンやJAの果たす役割が非常に大きい。物流業者との連携を強めていくことで、物流効率を上げて、下がったコストを農家所得の向上に振り向ける。物を売るだけではなく、運ぶコストの見直し、あるいは効率化、同時にその専門性について、民間を含めた物流との連携が非常に重要だと思います。

2点目は、農協の委託販売ではなく、買い取りをするという機能です。

当然、農協で品質や等級の基準を決めなければなりません。



せんが、販売先は十分あると思います。今すぐに全部とは言いませんが、一部スタートしていくことが、所得向上に繋がる方策ではないか。今から始めて5年後程度を一つのタイムテーブルとして検討に入るべきではないかと思っています。

最後に一言

業務用、加工用農作物の作付面積を増やす、あるいは安定供給化をお願いしたい。コンテナを当社もたくさん持っており、取りに行っても構いません。それで、段ボール梱包が不要となりますので、そういう取り組みを是非お願いしたい。

買取は、年内精算に繋がりが、農家に対しての資金繰り、ファイナンスの話にもなり、本当の意味での信用事業となるのではないかと思います。

所得向上に向けたさまざまな改革は、組合員が農協組織を構成している訳ですから、今後、どんな組織に方向づけていくか、その中で、自由度と縛りをもう一度見直すことが必要ではないかと思っています。

平成
30年度

釧路管内6JA合同積立貯金旅行

世界遺産

伊勢神宮と熊野古道を巡る 南紀白浜

4
日間

旅行実施
予定日

2018年4月中旬

伊勢神宮

二千年もの歴史を有し、内宮・外宮をはじめ125の宮社からなる「お伊勢さん」。全国より参拝客が訪れる「日本人の心のふるさと」です。

世界遺産

那智山青岸渡寺・那智の滝

青岸渡寺の赤い三重の塔と那智の滝のコントラストが絶景です。

熊野古道

世界遺産

那智山の麓から神社への旧参道は、石畳の道で「大門坂」と呼ばれ、道の両側にはスギ・ヒノキ・クスノキなどが並木として植えられています。

瀨峡(とろきょう)めぐり

吉野熊野国立公園内にある国特別名勝の大峡谷を、船で満喫します。

積立て貯金

積立方式はラクラク1年間

積立方式

(平成29年4月～平成30年3月)

毎月の
積立金額

14,000円×12回

満期
お受取金額

168,000円＋お利息

※定積は口座振替、もしくは店頭窓口にてお願いいたします。

満期後の
お支払い

満期後、お客様のご要望により、(株)農協観光が企画・実施する「伊勢神宮と世界遺産熊野古道を巡る南紀白浜4日間」の旅行代金に充当することができます。なお、お客様のご都合により、当該旅行への不参加の場合は、満期金額をお客様がお受取りいただけます。

旅行の
お申込みについて

当旅行につきましては、裏面に「予告版」として(株)農協観光によりご案内させていただきますが、平成30年2月上旬に改めて正式な募集広告を積立加入者様宛にご送付させていただきます。ご旅行に参加される方は、この正式書面を確認後、(株)農協観光と募集型企画旅行契約を締結することとなります。

※詳しくは裏面をご覧ください。

お客様の声をかたちに



株式会社 農協観光



JA旅行センター

2月定例理事会 平成29年2月27日(月)

報告事項

1. 専決事項及び諸会議について
2. 各委員会・諸会議等について
3. 1月末財務状況について
4. 事業の実施処理状況について
5. 釧路丹頂農業協同組合「乳質改善プロジェクト」要領の制定について

付議事項

- 議案第1号 組合員の資格審査について
 議案第2号 出資の減口承認について
 議案第3号 大口信用供与先に対する融資の承認について
 議案第4号 平成29年度 監査計画の策定について
 議案第5号 平成29年度 生乳生産基盤緊急対策事業要領の制定について

- 議案第6号 平成28年度 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業の承認について
 議案第7号 固定資産の取得について
 議案第8号 諸規程の制定について
 議案第9号 諸規程等の一部変更について
 議案第10号 諸規程の廃止について
 議案第11号 従業員に対する年度末賞与の支給について

※以上全件原案通り承認されました。

その他協議事項

1. 平成28年度決算処理方針(案)について
2. 平成29年度事業計画(案)について
3. 当面の業務日程について

■平成28年度	生乳生産実績(2月)			
	月計乳量(kg)	2月前年比(%)	累計乳量(kg)	累計前年比(%)
釧路丹頂農協	7,674,438.1	92.8	91,951,274.3	98.5
(鶴居地区)	2,662,166.5	96.1	31,633,925.9	99.4
(幌呂地区)	2,092,558.6	94.6	24,589,222.7	100.3
(白糠地区)	1,580,192.8	90.7	19,038,512.5	96.8
(音別地区)	1,339,520.2	86.7	16,689,613.2	96.2
管内計	40,290,825.4	93.9	487,441,128.4	99.9
(前年度管内計)	42,898,908.9		488,027,160.8	



最新の 営農技術から 農畜産物の 市場見通まで...

購読のお申し込みはJAへ
定価1か月2,520円

食農情報をリードする
THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞
<http://www.agrinews.co.jp>

編集後記
EDITOR'S NOTE

□音別・白糠4日クラブが三年間にわたり、地域のために取り組んできた哺育改善が「哺育プログラム」という形となりました。私がこの記事を作成するにあたり、五十嵐会長、普及センターの高橋さんと確認をしたのは、このプログラムは4日クラブが考えるプログラムであるという点でこれが全てではありませんが、ご参考にして頂ければ幸いですということでした。私も読ませて頂きましたが内容は大変わかりやすいものです。閲覧を御希望の方は、普及センターへぜひお問い合わせ願います。